

1 国指定史跡 田主丸古墳群 寺徳古墳

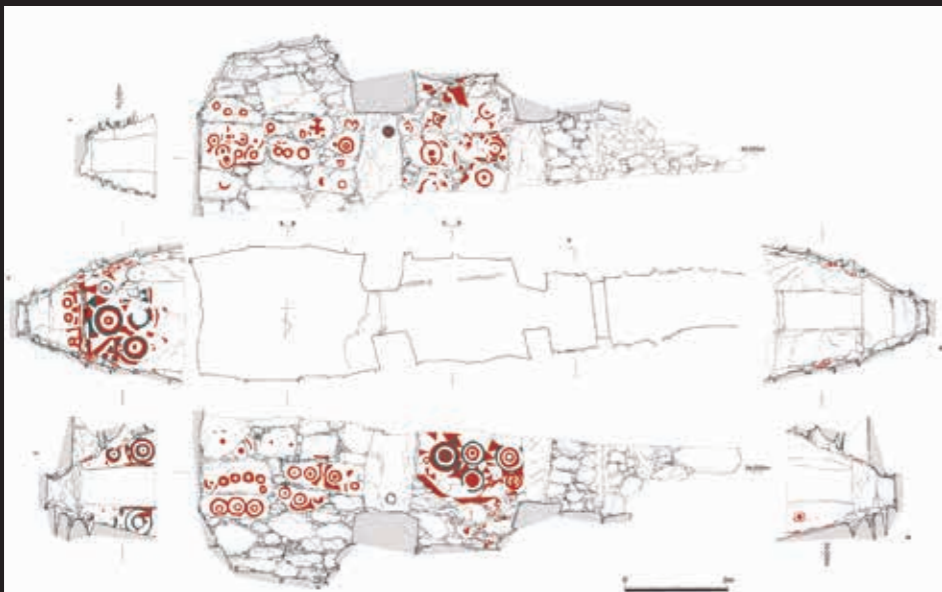
田主丸町益生田に所在する、墳丘直径18mの円墳です。石室は複室構造の横穴式石室で、装飾は後室から前室にかけての壁面に描かれており、赤・緑の2色が使用されます。

壁画は同心円文を主題としており、奥壁と玄門前室側、前室左側壁には大型同心円文を配置します。

描かれた図文はその他に、三角文・盾・舟などがあります。緑の顔料の使用は、主要な部分に限定されており、後室側壁などは、赤のみで図文が描かれます。同心円文を大胆に配する壁画は、耳納北麓の特徴のひとつであると言えます。



寺徳古墳奥壁



寺徳古墳石室実測図

2 国指定史跡 田主丸古墳群 中原狐塚古墳

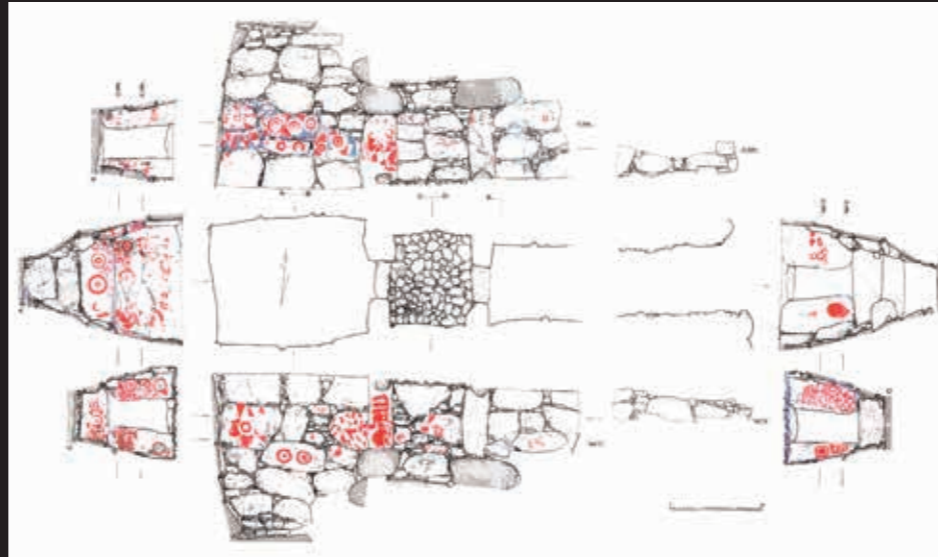
田主丸町地徳の山苞の道上段に位置する、直径19mの円墳です。

石室は複室構造の横穴式石室で、後室のほぼ全ての壁面、玄門、前室両側壁、羨門、羨道側壁に赤・緑・青の顔料により装飾壁画が描かれます。

この古墳の装飾の特徴は、石室壁面の広い範囲に、同心円文や三角文など抽象的な図文とともに、人物や鞆（矢を入れて背負う矢筒）、舟など具象的な図文が多く描かれることです。特に鞆の数は多く、発掘調査によって、多くの鉄鏃（鉄製の矢尻）が出土していることを考え合わせると、壁画は、この古墳に葬られた人物の生前の姿と密接な関係をもつものと考えられます。



中原狐塚古墳前室から後室



中原狐塚古墳石室実測図

3 国指定史跡 田主丸古墳群 西館古墳

田主丸町益生田の、標高83m前後の山林の中に立地します。

墳丘は、長径14mのやや楕円形の古墳で、複室構造の横穴式石室の奥壁と玄門の一部に赤・緑の顔料により装飾が施されています。

奥壁には、五つの同心円文と、連続三角文、十字文、舟、人物などが描かれます。中央の同心円文は、人物と重なるように描かれており、特徴的です。また、玄門袖石の前室側には、奥壁とは意匠の異なる舟が描かれています。



西館古墳奥壁



西館古墳 奥壁の装飾

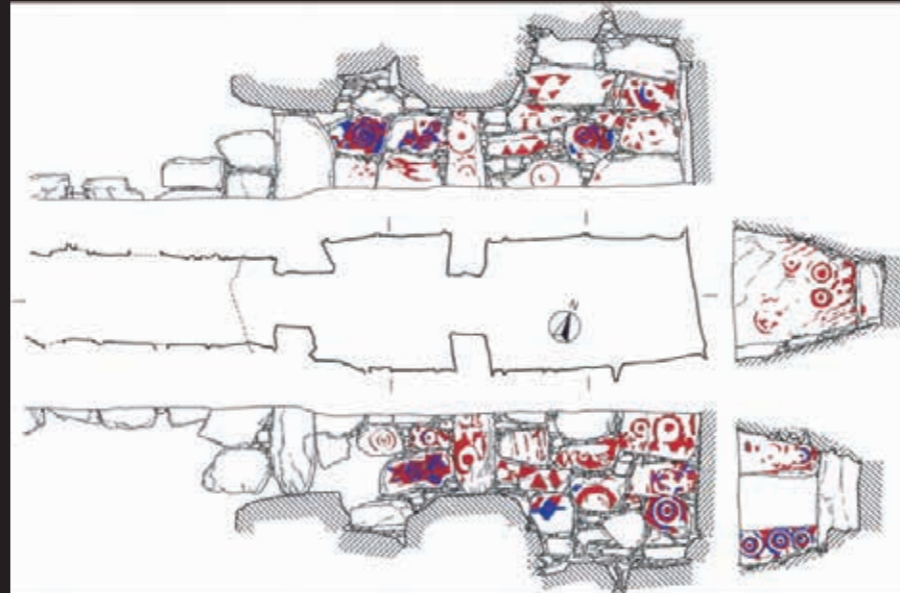
4 国指定史跡 下馬場古墳

草野町吉木に所在する、墳丘直径42m、高さ5mの大型円墳です。石室は複室構造の横穴式石室で、装飾は後室から前室にかけての壁面に描かれており、赤・青の2色が使用されます。

壁画は同心円文を主題としており、その配置には、うきは市の日岡古墳に通じるものがあります。描かれた図文はその他に、三角文・舟・鞆などがあります。下馬場古墳は、墳丘の規模や、装飾の内容から、耳納北麓を代表する装飾古墳であると言えます。



下馬場古墳奥壁



下馬場古墳石室実測図

5 県指定史跡 前畑古墳

草野町草野に所在します。墳丘は、大きく形を変えていますが、直径20mほどの円墳であったものと考えられます。複室構造の横穴式石室内には、後室から前室にかけて赤と青の顔料で、同心円文・円文・三角文などが描かれています。

現在は、長い歴史のなかで石材表面を覆った土などにより、壁画が見えにくく、同心円文のみが確認できる状況となっていますが、本来は多くの図文が描かれていたものと推定されます。



前畑古墳石室入口